

# 新潟県納税貯蓄組合総連合会優秀賞

## 比べてみて気づいたこと

新発田市立 猿橋中学校 三年 小林 莉子 さん

愛知県に住む祖父が令和二年に病気で亡くなり、祖母は一人になりました。私達家族は相談し、愛知県へ引越す事を決めました。私と姉の卒業を待って、令和四年四月に新発田市を離れます。

私は、お盆とお正月に愛知県に行っていました。地理がよく分かりません。祖母の家とお墓くらいしか分かりません。そこで、地理を覚えることも兼ね、祖母の住む市やその周辺の高校や中学校を見て回りました。外からしか見えませんでした。そこで感じたのは、どの学校も少し古いという事でした。新発田市で小・中と学んできた私は、その校舎の大きさ、新しさをあたり前だと思っていました。改めて、きれいな校舎で勉強していたのだと実感し、感謝しました。新発田市は教育に税金をたくさん使っていることを感じて学生として嬉しく思いました。

もう一つ、実際に二週間ほど祖母の家に滞在してみて、気づいたことがあります。それは祖母の住む市は高齢者に優しい、ということです。塾へ行く途中に、外を眺めると、高齢者施設がたくさんあり、介護タクシーや市営バスを多く見かけました。特に市営バスは区間を細かく分け、便数がたくさんあるので、免許を返還した高齢者でも簡単に移動することができます。また、行方不明になった方がいると町内ごとに無線放送を流しています。スマートフォンを持たない高齢者にも優しく、多くの人が捜査に協力してくれます。そして見つかったら、「ご協力ありがとうございました。」と放送が流れます。このようなことから、祖母の住む市は介護・福祉の方に税金をかけ、高齢者の住みやすい市をつくりあげているのだと思いました。

このように、改めて税金について考えながらいつもの街並みを見てみると、今まで気づけなかったことに気づくことができました。二つの市の税金の使い方は違うけれど、それぞれのよさがあることを感じました。そして、税金が大切に使われていることを自分の目で実感することができました。今まで、税金は高いし、なぜ出さなければいけないのだろうと思っていましたが、考えが変わりました。

今はコロナ禍でワクチン接種など、税金をかけなければいけないことが多くあると思います。税金には限りがあり、その中で国民の要望を聞いて全てを実現させるのはとても大変で難しいことだと思います。なので私たちは政府に求めることだけではなく、一人一人が自分にできる行動をし、税金の無駄使いをなくしていきたいと思いません。